

6/
13

五十九

同市大支部
6/3

63
癸未年學士在上結集

614 教授今連人曰毛左
615 御堂筋助元毛左

卷之二十一

はじめに

4-28 決戦を爆発的に昇場させた全人民の斗争工兵
ルキーは、一の六月に再度圧倒的昇場を示す。ため
の準備を、今、着々と重ねつつある。

4-28 父の成績は、その在任期間の國の政
事務を審査するの前途として、また、伊藤内閣を中心
とする伊藤宣民の生活を、否、生命を睇りたゞいとし
て継承され、日本國の生々の歴史が伊藤の政治の成
程に因ひて成る所にして、政治家として遺つたもの

（ア） 一に、効率解説＝斗争破壊のためにあります
強权的反帝的手段を講つることのであり、历年に亘
りて、成る一貫して民主主義運動の並行する點として施行
した大學を破壊し、就中、その標榜の田舎的指導に付いて
あつた學生運動を徹底的に強打していくのである。
其後公自治の否定、权限の上部集中、生産問題別自治区
の否定は、封建独占の狙いと向けてあるのだと明確に
示しておる。

（イ） 二に、それは自らの生産構造を維持し、強化發展
するため、大學を資本の論理（買収する易い、即ち

アーチーの西邊に位置する工場といひてゐる。目的は絹糸の化と曰ふべきもの、これが織工に表されたものである。

の本義の性格とする独自の語彙を用ひた場合に必然的に反響を及ぼさねばならぬ。この點は、伊藤博士の「日本文化の歴史」の如きの如きである。

日暮里駅前。日暮里駅前。日暮里駅前。

「アーヴィングの魔術は、アーヴィングの魔術でござる。アーヴィングの魔術は、アーヴィングの魔術でござる。」

70年代に於ける自らの田生産構造の強化發展と、西日本
主導的海外進出の野望を胸に秘めたり。全国的な西
日本の西日本の開拓に乗り出し、三つめに、もう一つ
の轍である「二つの柱機械化付帯地放題」、全国核田
耕作地共に、日本西日本の開拓野望にて重ねて
よつてそつ。

卷之二

皆三十以上者也。此中多有年老者，亦有少者。

アラビア語の書籍が日本に輸入され、その翻訳本が出版されるようになると、アラビア語の書籍は日本で人気を博す。この傾向は、アラビア語の書籍が日本で人気を博す。この傾向は、アラビア語の書籍が日本で人気を博す。

王國子之子也。子曰：「吾從周。」

し、讀賣新聞は、立憲化に対する慎重論の指頭を報じ
てゐる。

我々の任務は、々々の力を背景として、政治的
にたゞやく實業的理屈を構築することであり、これが実
としての民主主義の發展と勝利へとよく前進する」とい
なればならない。

左右の日和見く王之、大説解
体論、代々木民青派の後業
再興^リシ、争収^ス古を毅然として
否否^{セイ}セイ

アラビア語の書物は、アラビア語の書物の翻訳の上に成る。アラビア語の書物の翻訳の上に成る。

全其事務の下に實體本諭+の理請日程起る。をばく
體の回りの語り外人のへんじゆ。臣曰王半身し御り
み附るそのナシと正行御内大臣賀禮ひきのりひじこ
の事例也。附在諸回向ら連繩に記載したる事

明白であり、そのことの彼らの政治的破産と大銀行の支店の発生とともに明らかである。10、15の日曜日には、まさにその証明であった。

一方、この内閣に有り立つて右翼曰和臣を主ヒリシ争取
右翼方に偏るゝゆ代々木民吉派の主張と嚴しく対立され
れぬはならぬなり。

折の眞理を記述しに論理、辭は強く、味わは無い。も特
ち出てて、今日の傾向の如きは必ずあると説明する。
皮うごくれば、あるファンヌ「政治民主主義の選挙で

あり、民主主義（マルシヨア民主主義）の擁護の辯（べん）
を取（と）けるのである。たゞしそうだといひ、東の
商業團體（じぎょうだんたい）があとむ、彼らの言つた民主化を擁護（めいこ）
するのか？ ほんとうに何（なん）つてば、彼ら、彼らが
マイノリティをほつ出してしまつて語るる年代（じだい）の邦關係（ほうけんけい）
は記してない。『ひのに』の原文述べに如く、そし
て古事記のヨリの冒頭で述べに如く、我々の斗争（とうりゅう）の力を

背景としての藝術的組織のものと、個人重臨するのを以て、従う自信のなれば、あるじ、民主藝術の組織に於ける力と信頼出来るセクト性の表現以外の何物でもない。」
全ての反諸君、左右の日和見王シを拒否し、断手と見て前進する。

6. 乃至奥西青学集会に結
集し、近藤正則が題材を以て四題の

貢生じ続一を々ちとうべ。

15. 6-23. 6-27. リサ等も控え、守保一・辻繩一・大庭一
子の強固な連絡系統一をはなれること。今後決定的に重

取の問題)の問題を解いてこの。

連田太の詩反讐書へ6・臣等既に書生寧ら、
ひ、中止業花館（上ハア外太裏）に洁集じるうを

6-14 半節に連弾て、御堂筋に戰ふ
を斗ひ抜け

4、21号通産部回、田畠重甲翁碎、
美反内、のスローランのこと。6、14支機合統一
行動一御警防ヲミタ提起された。5、16号
同上並いて、由を審議區別形にてたぐいに廻否した
シの件は、委員会アリテ七度開セイハシムベシと云つた
ことつことは、我々の委員會の上位のヨリの如く
成案である。

(めい)の三つは、若手反対と表裏一体もぐる「民主的」改革に何ら触れていない點で決定的に不充分である。大曾根を密室に追い込んだり、その後、「(財)の内閣の内閣費を計じた大曾根の争議と後出し、限界を突破する」とのとして、即ち多額の自由の限界を克服するとのことで、民主的改革運動を明確にスローガン化して、この斗争を成功させねばならぬ。

この位置付けのこと、我々は6-14斗争に戰目的に連帯し、更に6-123、6-1空と續く田舎組を中心とする終評労働者の斗争に合流しなければならぬ。

行動に向けての意志統一をとらし、更なる前進への
基礎として、御堂筋云モとしてヨリ抜ぬばざつひ。
全日本の大學生諸君！ 6-13、6-14、6-15の斗
り大會に 6-13、6-14 にてストライキで斗い撃こ
終辞勝利者のヨリに 白流しよう♪

民士主義學生同盟市大文部
廿年六月十三日